

# 夏の高校野球パーフェクトガイド2017

北海道・東北

関東

北信越

東海

近畿

中国

四国

九州・沖縄

## 地区勢力ピラミッド

### 第1グループ

報徳学園 明石商 社

### 第2グループ

神戸国際大付 育英  
神港学園 市尼崎

### 第3グループ

東洋大姫路 三田松聖 滝川  
関西学院 須磨翔風

### 第4グループ

滝川二 市川 村野工  
西脇工 東播磨  
武庫荘総合 北条 市西宮

## 秋季大会

神戸国際大付	4
関西学院	1
東播工	0
神港学園	10
村野工	2
育英	5
市尼崎	2
報徳学園	4

優勝II神戸国際大付

## 春季大会

報徳学園	2
市西宮	1
育英	2
滝川	1
神港学園	5
社	15
明石商	3
神戸国際大付	0

優勝II報徳学園

## 大会展望

### 公立勢にもチャンス大の激戦区

センバツ4強を果たし、春の兵庫を制した報徳学園がややリードしている感はあるが、全体的には力が拮抗しており、激戦が予想される。強豪私立がひしめく中、過去10年で公立校が頂点に立ったケースが3度あり(東西に分かれた2008年の記念大会含む)、兵庫の夏は下馬評通りの展開にならないことも多い。昨年の市尼崎もけつして優勝候補に挙がっていたわけではなかった。近年着実に力をつけている須磨翔風、東播磨、武庫荘総合などの公立勢にも大いにチャンスはある。

## 無視できない兵庫の「南北の距離」

南北に長い兵庫県だが、試合会場は南部に集中しているため、北部のチームは真夏の移動による疲労との戦いを強いられやすい。加えて、北部の選手は自然に囲まれた環境で生まれ育ったケースが多い。グラウンドレベルから建物が見えるような球場だと平常心を失いやすいという理由で「できれば緑に囲まれた球場でやりたい」と真剣に語る監督も。同一県といえども環境や条件が大きく異なりがちな兵庫。そんな視点を加えることで観戦がより味わい深くなるかもしれない。

## 逸材遊撃手は順調に進化中

### 野手編

野手では強肩強打の逸材捕手が集う。猪田和希(神戸国際大付)は遠投110メートルの強肩を買われ、現チームより外野手から捕手に転向。身体能力の高さも加わり、瞬く間にブ口注目の司令塔となった。篠原翔太(報徳学園)は

結城彪(滝川)、野上諒(育英)、社の佐名川拓臣、吉田光一、関西学院の伊原木輝、高木駿らの名が楽しみな好右腕として挙がる。

## 注目野手



篠原翔太(報徳学園)

は思い切りのいい打撃が魅力。核弾頭を務める長身の俊足外野手・竹内紘生(明石商)、走攻守揃った内野手の森田陽太(東洋大姫路)も注目目の好素材だ。

勝負強い打撃と投手のよさを引き出す巧みなりードが光る。ともに1・9秒前後の二塁送球タイムを誇る永良賢悟(市川)、稲富崇樹(三田松聖)の高いスローイング能力は全国トップクラスだ。

抜群の野球センスで入学直後に名門の定位置をつかんだ2年生遊撃手の小園海斗(報徳学園)は、今春のセンバツで広角に安打を量産し、卓越したミート力を大舞台でも証明。多治見戦では本塁打も放った。兵庫ナンバワン三塁手の呼び声が高い殿合小次郎(市尼崎)は思い切りのいい打撃が魅力。